

---

# ~ 真・マタギ伝 ~

大西

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

〜真・マタギ伝〜

### 【Nコード】

N2181L

### 【作者名】

大西

### 【あらすじ】

初めての小説です。駄作ですが、よろしく願います。

## プロローグ

…フイイイーヨー…

林の中で鹿笛が訝する。

今、俺は鹿笛を使い鹿の待ち獵をしている。

…ガサガサツ…バサンバサン

200メートル程先から鹿がシダをかき分けてきた。

俺は静かにライフルのボルトを操作して弾丸を薬室に装填する。

鹿はその小さな音を聞き取ったのか、辺りを見回す。

…逃げない内に撃たなければ…

俺はスコープの中で鹿の首に狙いを合わせ引き金を引いた。

ズダアアアアン！

弾が当たった刹那、スコープの中で鹿は毛を逆立て目をつぶっていた。そして、ゆっくりと倒れていった。

念のために次弾を装填し、ゆっくりと鹿に近付く。

鹿は完全にこと切れていた。

鹿を近くの沢まで運び、解体する。弾は首から心臓に達していた。

皮を剥いで、背中のロースと腹の、横隔膜、そして、頭部をビニールで包み、ザックに入れ持ち帰る。そして、残った骨などは、埋めて下山する。

山を下り、実家に帰ると犬小屋の犬達がやけに吠えているので、ライトを照らしてみた。すると、闇夜の中に目玉が10以上現れた。鹿だ。多分田畑の草を食べに来たのである。昔は、こんな事は少なかった。山に食料が充分にあつたからだ。

この小説では、俺の狩猟人生を振り返りたいと思う。

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2181/>

---

～真・マタギ伝～

2010年10月28日08時07分発行